

長年にわたって北極を愛し、北極に魅せられてきた世界を代表する研究者

ノルウェー極地研究所 **太田昌秀博士講演会** <第2回北方圏講座>

北極海：その歴史と今 ～近年の極域の地球温暖化と日本への影響～

(日時) 2012年6月12日(火) 18:30～20:00 *受付:18:15～

(会場) 札幌市中央区北4条西4丁目駅前通り **札幌国際ビル8F 国際ホール**

<主催>

(公社)北海道国際交流・協力総合センター、(公財)北海道環境財団、北海道青少年科学文化財団

後援:北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道新聞社、(財)北海道新聞野生生物基金、北海道フィンランド協会



(講演者) 太田昌秀先生略歴

長野県大町市生まれ。

1962年北海道大学理学研究科博士課程修了。

専門は地質学。同年同大学理学部助手。

1964-66年Post-Dr留学生でオスロ大学地質博物館研究生。1966年、1968年ノルウェー極地研究所でスピッツベルゲン探検に初参加

1969-70年 北大ネパール・ヒマラヤ調査隊副隊長。

1972年北大退職、ノルウェー極地研究所研究員(2000年まで)。

この間、北極圏に夏30回、南極に6回野外探検調査に参加、専門論文約200編。

1998年 ナンセンの「フラム号北極海横断記」日本語訳出版。

2002-06年 ロシア原子力砕氷船の北極点航海に講師として乗船。

1973年 北大山岳部などとの共同で秩父宮山岳科学賞受賞。

2009年 日本地質学会国際賞受賞(日本人で最初の受賞)。

1993-94年ノルウェー日本人会会長。1980-90年代オスロ市内のギャラリーで3回個展を開催(極地風景などの油彩画)

現職 ノルウェー極地研究所嘱託上級研究員

(太田先生のお話し)

北大西洋の北緯 76～80°にあるスピッツベルゲン島西岸には、ヨーロッパ北極研究の拠点がいくつもあり、私もここから仕事を始めました。

北極圏は、冷戦時代には軍事的に、現在は地球環境問題や資源開発に、重要な地域です。

今日、北極海で何が起り、その生態系はどんな影響を受けているかを知ることは、地球汚染のセンサーとして重要です。

本来北極圏では全く使われていない化学物質が、中緯度の農・工業地域から海流や気流に乗って移動し、最終的には北極圏に雪として降り、その食物連鎖最上位の動物シロクマなどに濃集します。

アカデミックな話の後に北極海の温暖化がこれからの世界のエネルギー資源の配分や海運にどんな影響をもたらすかというようなお話をしましょう。

参加者定数 130名(無料) *定員になり次第、締め切らせていただきます

(お申し込み先)

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館12階 (公社)北海道国際交流・協力総合センター

TEL(011)221-7840 FAX(011)221-7845 E-mail: rch@hiecc.or.jp

〒060-0004 札幌市中央区北4条西4丁目 伊藤・加藤ビル4階 (公財)北海道環境財団

Tel(011)218-7811 Fax(011)218-7812

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目パークビル4F 北海道青少年科学文化財団

TEL(011)788-2011 FAX(011)788-2211 E-mail: zaidan.ho@tune.ocn.ne.jp

(切り取り線)

お申し込み

* 上の3団体のいずれかにファックスまたはメールでお申し込み下さい

(ご出席の方のお名前とご連絡先)

お名前 _____ 男 女 _____ 社会人 学生 _____ (* Oで囲んでください)
(ご連絡先)
(Tel) _____ (E-mail) _____ @ _____